

令和4年度サケ来遊状況及び令和5年度サケ来遊予測

令和5年8月21日
宮城県水産技術総合センター

1 令和4(2022)年度サケ来遊状況

令和4年度は河川捕獲が1万5千尾、沿岸漁獲が3万2千尾で来遊数は合計で4万7千尾（対前年度比125%）となりました。また、沿岸での水揚金額は69百万円（同84%）となりました（図1）。沿岸漁獲量については、全国では84,795トン^{*1}（対前年度比156%）、宮城県では87トン（同110%）となりました。

※1 国立研究開発法人水産研究・教育機構（以下、水研機構）調べ

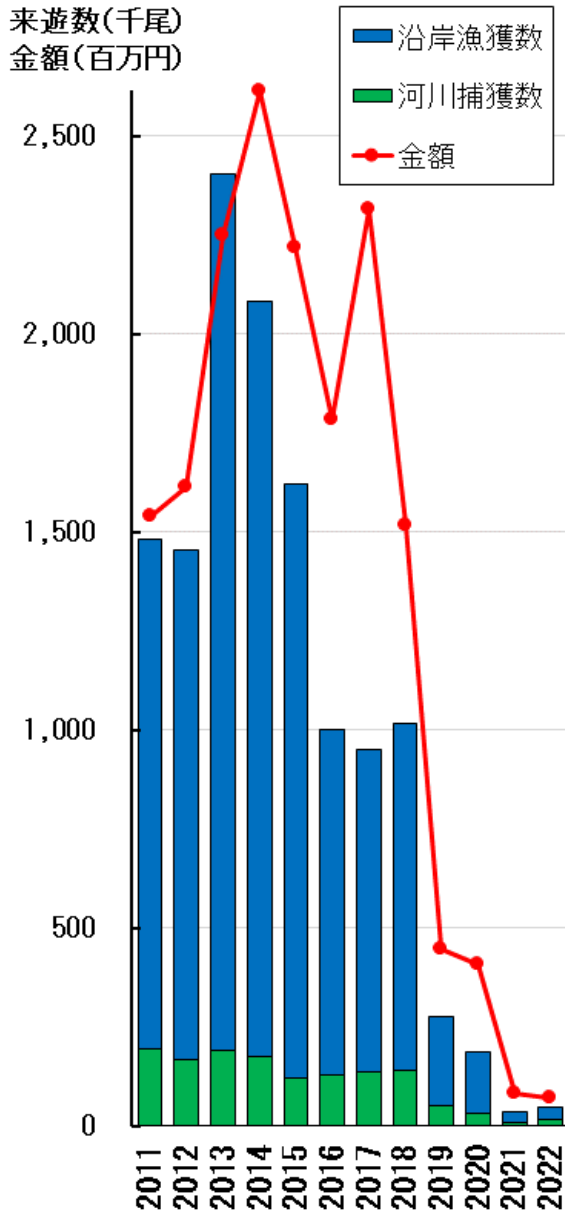


図1. 宮城県のサケ来遊数・水揚金額の推移

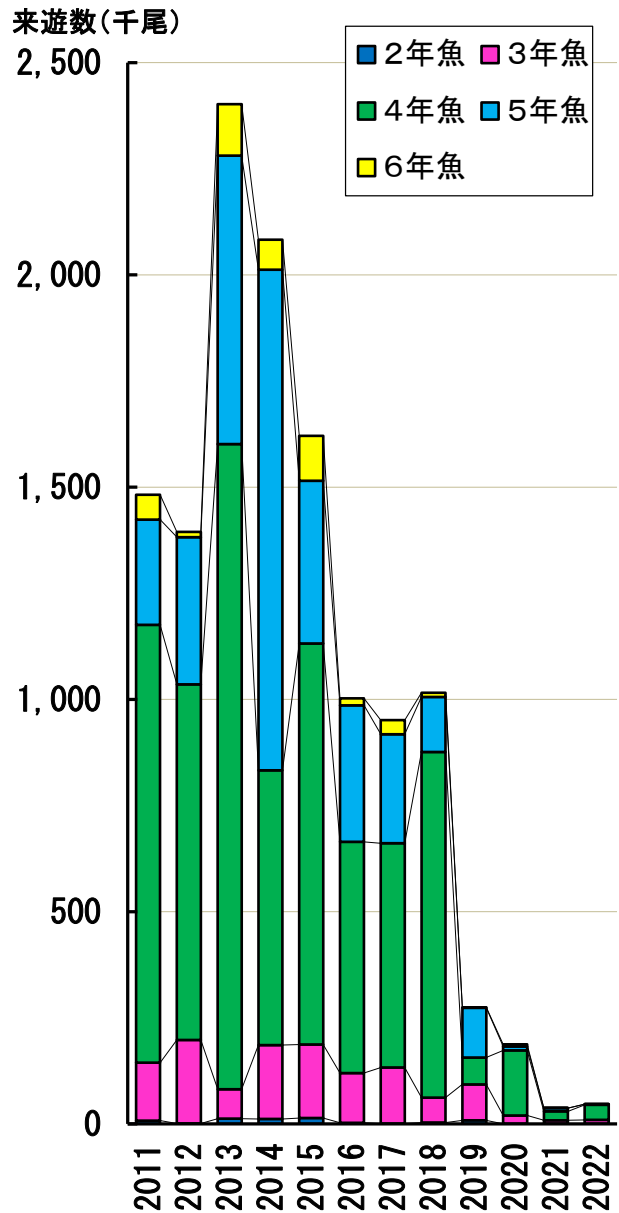


図2. 宮城県のサケ年齢別来遊数の推移

本県へ来遊したサケを年齢別にみると、例年、4年魚の割合が高い傾向にあり、令和4年度は、4年魚の割合が全体の76%、次に3年魚の割合が全体の19%を占めました（図2）。

年齢別の内訳では、4年魚が3万5千尾（対前年度比168%）、次いで3年魚が9千尾（同120%）、5年魚が2千尾（同19%）、2年魚が5百尾（同47%）、6年魚が150尾（同563%）となりました。

2 令和5(2023)年度サケ来遊予測

令和5年度来遊予測値：2万9千尾

【シブリング法による予測値，1万9千尾～4万6千尾の範囲となる確率が約80%】

令和4年度来遊実績値：4万7千尾（来遊予測値：6万7千尾）

令和5年度の予測値は，令和4年度の実績値より低い値となっています。令和3年度の来遊も等しく低水準であり，今後も同様の傾向が継続することが考えられます。資源の回復に向けて，引き続き来遊状況を注視するとともに，計画的な種卵確保と健苗の育成が重要と考えられます。

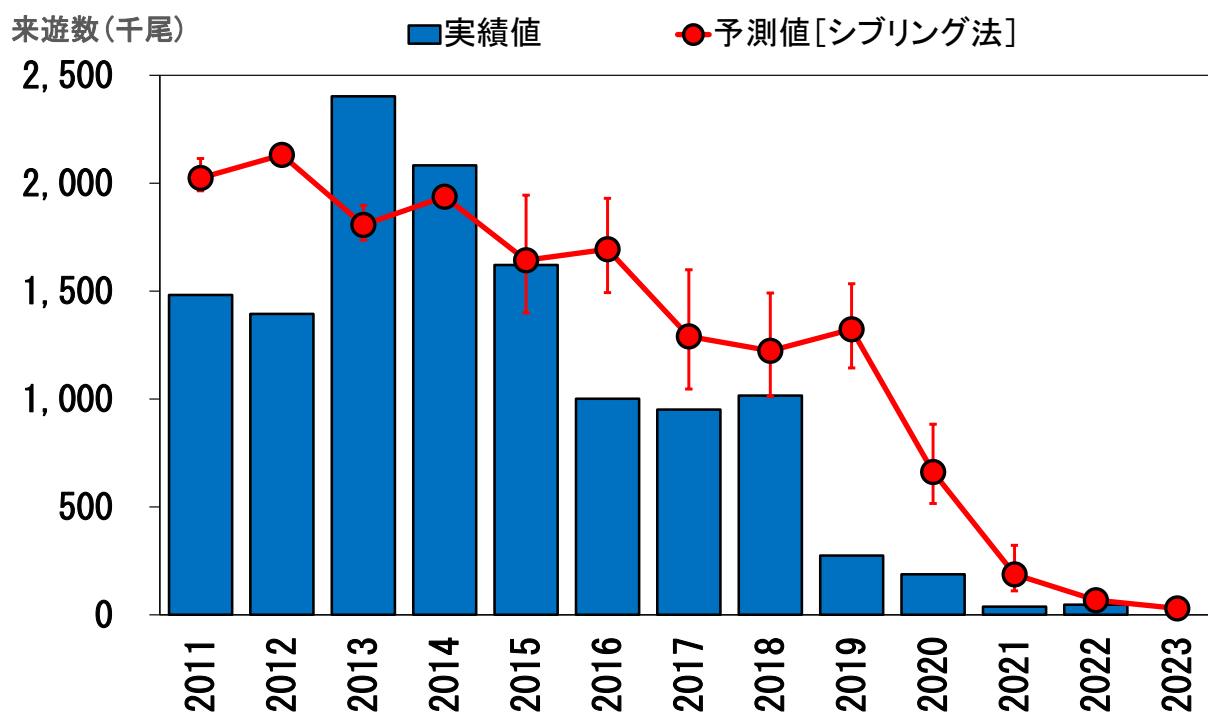


図3. シブリング法による来遊予測値と来遊実績値の推移

令和5年度予測値：来遊数2万9千尾（1万9千尾～4万6千尾の範囲となる確率が約80%）
図中のバーは推定誤差を示す。

《来遊予測手法について》

近年の低水準の来遊に対して「シブリング法」が，実績値に近い予測値を算出できることから，令和4年度から「シブリング法」によって，宮城県の来遊数を予測しています。

「シブリング法」は，同一年級群（放流年が同じ）の若齢魚から翌年の年齢群を推定する方法です。水研機構から来遊予測手法としての報告^{※2}があり，北海道では実際の来遊予測にも用いられています。

※2 「平成26年度国際漁業資源の現況 サケ（シロザケ）日本系」 水研機構 さけます資源部 著

○本県のサケ来遊は秋季の沿岸海況にも影響を受けます。海況の予測については，水研機構水産資源研究所が今後，発表する情報(下記)を参考にしてください。

東北海区海況情報 <https://ocean.fra.go.jp/predict/index-j.html>